

第五回

第105号
22. 6. 1

発行 編集委員会
事務局 在阪第五地域センター
TEL 3785-2000

編集委員	田中 光子
豊1	北村 紀子
豊2	松浦 文子
豊3	佐藤 伸男
豊4	藤原 三子
豊5	塚本 博良
葉1	櫻井 英夫
葉2	長尾 春代
葉3	中島 美恵
葉4	川名 紀子
葉5	小林 紀子
葉6	五十嵐 勝也

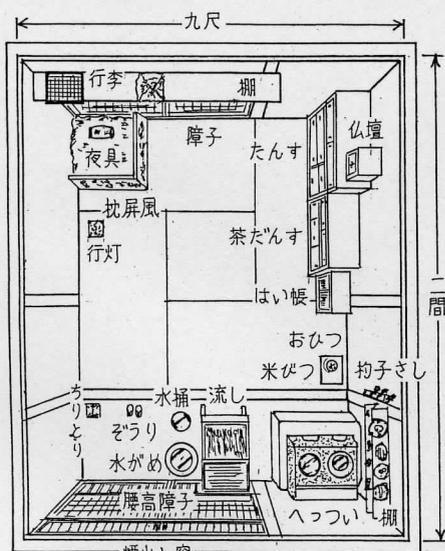
江戸の話 『九尺二間の長屋と庶民の生活』 『お伊勢参り』

明治頃でも、この辺り下蛇窪(二葉1丁目)は民家も少なく、鮫洲の漁師が松平邸(現二葉図書館)へ魚を売った帰り、一軒家だった岡部宅(現岡部ハウス)へ死んだ魚の値段でいいから置いていったそうです。一方、江戸市街では日本橋を中心に水路を利用、深川の魚、周辺の農産物、各地からの物資で生活を支え、急速に商業、文化が発展して行きました。その頃の庶民の生活ぶりは……。

凶は春米屋の通い職人、秀次の住まい。玄關横には竈(へつつい)、流し、水がめがある。押し入れはなく、夜具は片隅で枕屏風で囲ってある。畳部分は4畳半しかない。ほとんどはこのようにつくりだが、親子3人暮らしてはこれで十分な広さだったようだ。家賃は300文から500文(7500~12000円)で、収入の約12%位。畳や障子は自分持ちなので、板の間だけやゴザでの部屋もあった。

長屋では、全体が家族同様の共同生活なので、うまく続けていくための人間関係やルールがあった。「大家は親も同然、店子も同然」大家は家賃の取り立ての他、店子の世話や、お触れの伝達等、公務に渡る世話をしていた。長屋の路地裏には井戸や共同便所、お稲荷様もまつられている。火は、火打石、火打ち釜、つけ木で起こす。水は、江戸市街では神田上水等を使った上水道が発達して井戸の型をしているが

木管で繋がっていた。しかし、深川では川を越えられず、掘りぬき井戸(塩分を含む)だった。流しからの排水はわずかで排水口に布袋を取り付け、ゴミを落とさないよう



長屋・九尺二間の部屋

打ち水をすれば、すぐ夕涼みが出来た。冬は江戸では火鉢や炬燵で十分だった。木造家屋はエコだが燃えやすい欠点がある。しかし皮肉にも江戸の3度の大火は経済効果を生み出している。

伊勢参り

江戸時代の人々は、一生に一度は伊勢参詣へ行ってみたくて、1705年4月9日から50日間に362万人の参詣者がつめかけた記録があります。この頃は木賃宿、旅籠の全盛時代で「旅行用心集」が発行される等、初めてのレジャーとなった。当時はすべて徒歩。1日40

はきれいだった。廁(トイレ)は共同で飲み取り式、汚物を農家が引取り、開き戸は半分から下のみ、金隠しのようなものが後方にあるが、これは着物を汚さないためのもの、ロウソク立てが前にあるのでわかる。7歳になると寺子屋で読み書き、ソロバンを習う。当時は意外と教育熱心で字を読めない子どもはほとんどいなかった。10歳になると男子は丁稚奉公に、女子は行儀見習という就職をする事になるが、子どもにとっては、遊ぶ時間も少なく「教育ママ」ぶりが目に浮かぶ。ペットは虫、金魚、ハツカネズミ等の小動物が好まれ、野良犬も地域の人たちに可愛がられていた。食料は農地面積15%程度だったが、面積あたりの収量が多い米を主食に、豊富な魚と合わせてエコな生活が出来た。木材が入り易く、熱も伝えにくいので、風通しが良く、庭に

キロメートル程歩いたそうです。天下の險の箱根を越えたり、大雨では大井川が川留となったりしましたが江戸も後期になると開所も形式化し、女性でも旅をするようになってきました。「伊勢講」のお陰で旅がしやすくなったこともあります。グループでお金を出し合い、くじ引きで当たった人がそのお金を使えるのです。一度当たるとくじ引きには参加出来ません。伊勢で有名な「赤福本店」近く「おかげ座」がありますが、人形で当時の賑わいぶりを再現しています。どれほど楽しかったか行ってみてください。

地域センター 新所長を紹介いたします

初めまして、山際由美子です。



- ◎前職場 広報広聴課
- ◎出身地 東京
- ◎趣味 犬の散歩

品川の臍、荏五を応援します。センターへ遊びに来てください。

新任町会長を紹介いたします

上村和雄さん(二葉3丁目町会)



戦後のベビーブームのなかで採まれ育って来ました。二葉3丁目の先輩方が作ってきた

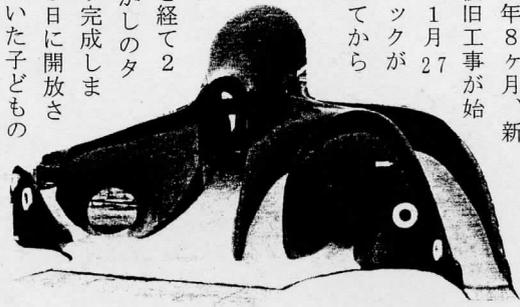
歴史と伝統を守りつつ町会の誰もが気楽に町会活動に参加できるように開かれた町会と元気な街づくりをより一層率先垂範して行きたいと思えます。趣味は学生時代からのテニスと尺八です。

おかえりなさい 「タコさん」

神明児童遊園

通称「タコ公園」の中央を通過する都道補助26号線の工事が着工することになりました。長年親しんできた大小のタコは新しく造られる遊園内に移設することに、しかし、大タコは強度不足などのため移設不能となり解体撤去となりました。

平成19年7月20日「タコさんのお別れ会」が、保育園の子どもさんなど大勢が参加して、盛大に行われました。翌日タコの姿は消え、見ることはできませんでした。お別れして2年8ヶ月、新遊園内での復旧工事が始まりました。1月27日に骨組ブロックが搬入、組み立てから始まり土台コンクリートの打設・左官・塗装・ワックス掛けを経て2月24日に懐かしのタコさんが甦り完成しました。3月5日に開放され待ち望んでいた子どもたちの笑顔が溢れていました。



3月25日に雨天の中「タコさんのお引越し祝い」の式典が行われました。

【利用の皆さんの声】

○中央公園にはない遊具なのでとても楽し

そうに遊んでいます。(児童の母)

○日当たりが良く、明るい公園になったので良かったです。出来れば他の遊具も復活して欲しいです。(三木小の母)

○幼稚園帰りに出来上がるまでを毎日見せてきて、とても完成を楽しみにしていました。家でも今日はタコ公園で遊ぶと言っています。親としては、他の遊具も出来ればと思っています。(5歳男児の母)

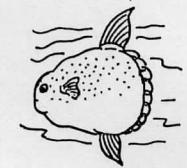
○日陰、木がないと真夏の遊びが大変。ベンチの数増やして。(5歳男児の母)

○三年ぶりにできて毎週遊んでいます。よかったです。(5年生の男児)

親子バスワールド大洗

茨城県大洗水族館

2月14日青少年対策地区委員会の事業で、80名の方が参加して行ってきました。曇り空の中を元気に出発。茨城県に入り車窓から残雪が、また太平洋が見えると皆大歓声を上げるなど2時間に到着しました。館内は2階から7階までテーマごとにゾーンに分かれており各自自由に散策。

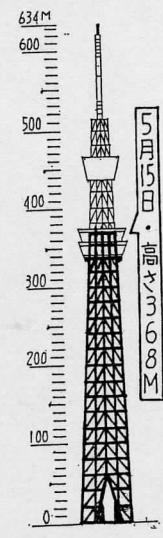


大水槽では水中カメラマンが魚の真近まで接近する撮影で細部までモニターに写し出され、クイズを交えての説明が面白かったです。

動物の食事時間では、ラッコ・アザラシ・マンボウなどの旺盛な食欲にビックリ。ペンギンの散歩やアシカ・イルカのショーなど他にもいろいろなプログラムもあり、ゆつくりと時間も忘れ、とても楽しむことができた1日でした。



★東京スカイツリー情報



世界一へ。空に向かって伸びる地デジの白い電波塔、3月29日に338Mとなり東京タワーを超えました。

第2回 えばこフェスタ

3月13・14日の2日間、荏原第五地域センターと大間窪小学校で開催されました。昨年活動した民謡・健康体操・書道・水墨画・絵手紙・古文書・手作りうどん・保護司会・自転車安全教室などに加え今年、国際救急法研究会が参加しました。

第五つうしんは戸越屋敷の内部模型・東京スカイツリー情報・下神明天祖神社の狛犬模型とその台座の碑文の拓本や本紙第69号で紹介した山崎さんの竹細工を展示しました。「身近なところで行っている催しが見られて楽しい。毎年開催してほしい。」との声がかれました。

編集委員の交替がありました

再任委員 松縄文子さん (豊町3丁目)



他の委員の方々の足手まといにならない様に私なりに役目を果たしたいと思います



新任委員 五十嵐勝也さん (二葉3丁目) このたび思いもかけず編集委員になりました。宜しくお願いします。

※ 3月末で次の方が退任されました

土橋史江さん (豊町3丁目) 1年間ご苦労さまでした。

ひり言

墨田区押上1丁目、東京スカイツリーの建設地。観光地となりバスツアーなど観光客が増え一部道路では交通支障もあり。東武伊勢崎線の業平橋駅ホームには「撮塔?」が、注意警告の掲示が出されました。工事中以来観察を断続中です。ルール・マナーは守ろう。

塚本